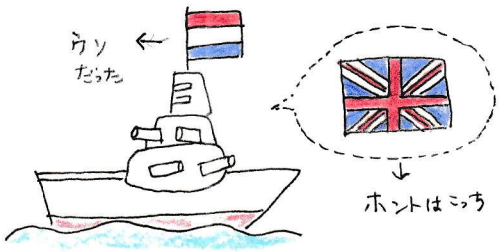
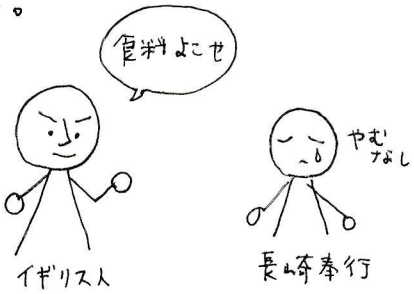
次に イギリス

1808年、イギリスの軍艦 フェートン号が、オランダ国旗を掲げて長崎に入港し、同国人と思って出迎えたオランダ人を拉致した。



長崎奉行は イギリス側に オランダ人の解放を求めたが、
イギリス人は 拒否し、水と食料を 要求した。

翌日 イギリス側は 人質を 一人解放し、
米、野菜、肉を 要求すると 同時に、
拒否すれば 港内の 日本船を 焼きはらう
とおどした。



↓

長崎奉行は やむなく 食料や 水を イギリス船に 提供し、
イギリス船は 残る人質を 解放して 出航した。

↓

（事件後、長崎奉行は 国の権威を 辱めたとして、
自ら 切腹した。）

↓

これらの事件から 幕府は、

イギリスとロシアは危険な国 と認識した。